



ウィリアム ブレイン名誉教授

ウイリアム プレイン名誉教授 年譜・著作目録

〈年 譜〉

- 1965年 シドニー大学（オーストラリア）卒業（英語学、政治学専攻）（至る1969年）
- 1969年 オーストラリア産業・貿易省、輸出調査官（至る1970年）
- 1971年 オーストラリアトレード SE-Asia の輸出コンサルタント（至る1973年）
- 1972年 イギリスのカレッジにて自然医学師免許（4分野）取得（至る1975年）
- 1974年 英国機関イタリアボローニャ校講師（至る1975年）
- 1975年 英国機関ポルトガルギモライジ校担任講師（至る1978年）
- 1976年 ミンヨ大学（ポルトガル）講師（至る1978年）
- 1977年 カンタベリー大学（英国）ピルグリム・イングリッシュ・ランゲージコース修了
- 1978年 ジュネーブ商業学校（スイス）講師（至る1980年）
- 1978年 ローザンヌ大学（スイス）（至る1980年、現代フランス語教員免許取得）
- 1980年 ジュネーブ大学（スイス）発達学研究所、発達学コース修了
- 1980年 英語学校設立（スイス）校長（至る1985年）
- 1985年 サンパウロ銀行（イタリア）講師（至る1988年）
- 1986年 トリノ大学（イタリア）講師（至る1990年）
- 1987年 レディング大学大学院（英国）英語教育学修士課程（至る1989年、同課程修了）
- 1988年 レディング大学（英国）夏期講習講師（English for Academic Purpose）
- 1989年 カンタベリー大学（英国）ピルグリム・イングリッシュ・ランゲージコース 英語教師育成講座修了
- 1990年 新潟大学教授（ELT）（至る1993年）
- 1993年 筑波大学教授（至る1998年3月）
- 1998年4月 名古屋外国語大学教授（至る2011年3月）
- 2011年4月 名古屋外国語大学名誉教授

◇学会及び社会における活動等

- 1991年～現在 全国語学教育学会
- 1990年～現在 大学英語教育学会
- 1993年 国際英語教育学会
- 1999年 アデレード大学 ヨーロッパ研究・総合言語学センター、アジア研究センター（スタッフセミナー）
- 2003年 シンガポール国立大学 英語コミュニケーションセンター（スタッフセ

	ミナー)
2005 年	豪州日本研究学会
2006 年	アデレード大学 アジア研究センター (スタッフセミナー)
2006 年	アデレード大学 言語学部 (大学院セミナー)
2006 年	岐阜県立岐阜工業高校 (教育講習会)
2006 年	国立台中教育大学、台湾 (セミナー)
2006 年	国立台湾師範大学 (セミナー)
2006 年	国立政治大学、台湾 (セミナー)
2007 年	京都外国語大学 (ピースカンファレンス)

〈著作目録〉

◇著書

Awareness Training in Learning and Teaching, 1991, Edizioni il Capitello, Torino, xiii plus 189 pp.

Teaching Abroad: an adventure in culture and curriculum, 1991, Edizioni il Capitello, Torino, xi plus 52 pp.

Adapting Traditional Language Teaching Methods for a New Communicative Curriculum in Japanese Universities, 1998, 文部省科学研究費補助金 プロジェクト番号: 11680285、個別プロジェクトレポート

A New Theory of Language Learning to Encourage the Adoption of a Communicative Curriculum in Japanese Universities — Silence in the Classroom, 2003, (1993年～2003年 リサーチプロジェクト) 文部省科学研究費補助金 プロジェクト番号: 07680252、個別プロジェクトレポート

◇学術論文

1. 'Pair Group Learning,' 1993 『新潟大学教養部ジャーナル Vol.24』 pp.57-70
2. 'The Management of Silence: awareness in taught language learning,' 1995, *Studies in Languages and Cultures (University of Tsukuba)*, Vol. 41 pp. 81-97.
3. 'Learning through Silence: awareness in natural language learning,' 1995, *Studies in Languages and Cultures (University of Tsukuba)*, Vol. 40 pp. 177-194.
4. 'Paradigms, Groups and Power: the practice of Pair Group Teaching,' 1997, *Studies in Languages and Cultures (University of Tsukuba)*, Vol. 45 pp.75-89.
5. 'Content in University Language Classes: future directions in language learning,' 1997, *Foreign Language Center Journal (University of Tsukuba)*, 6 pp.
6. 'A Teaching Method for "Content" Classes: Pair Group Teaching,' IN *University-based Perspectives on English Curriculum Development*, 1998, *Japanese Ministry of Education Grant-in-Aid for Scientific Research, group project report* (Foreign Language Center, University of Tsukuba), pp. 19-27.
7. 'Visiting a 'Plain Pair Group Teaching' classroom,' 2005, *web site www.creativediscussion.*

org, c. 5 pp.

8. 'The Awakeness Paradigm,' 2006, *web site www.creativediscussion.org*, c. 12 pp.
9. 'Active Education: a report on Campus Creative Discussion at Nagoya University of Foreign Studies,' 2007, *web site www.creativediscussion.org*, c. 12 pp.
10. 'Insight to Earthsight,' 2008, *web site www.creativediscussion.org*, c. 6 pp.
11. 'Bringing Wisdom into Planetary Leadership: creativity in collective deliberation,' 2009, *web site www.creativediscussion.org*, c. 5 pp.
12. 'Creativity in the Organisation: a new paradigm for corporate creativity,' 2009, *web site www.creativediscussion.org*, c. 5 pp.
13. 'NUFS Creative Campus,' 2010, *web site www.creativediscussion.org*, c. 18 pp.
14. 'Teaching and Testing, the Terrible Twins,' 2011, *web site www.creativediscussion.org*, c. 5 pp.

◇研究助成または補助を受けたもの

「日本の大学における新たなコミュニケーションカリキュラムへの伝統的語学教育の適用」 1994年～1997年 文部省科学研究費補助金個別リサーチ

「総合英語教育の発展」 1995年～1997年 文部省B2科研費ファンド 筑波大学シニアメンバーによる3ヵ年プロジェクト

「日本の大学におけるコミュニケーションカリキュラムの採用促進の足掛かりとなる新語学学習理論」 1999年～2002年 文部省科学研究費補助金個別リサーチ

◇その他の論文

1. 'A Glimpse inside the Teacher Development Classroom,' 1988, University of Torino, 8 pp.
2. "'Put him in the Sac': setting up a self-access centre in a major Italian bank,' 1988, Istituto Bancario San Paolo di Torino, 10 pp.
3. 'An ABC of PGT,' 2005, *web site www.creativediscussion.org*, c. 6 pp.
4. 'Creative Discussion Groups,' 2006, *web site www.creativediscussion.org*, c. 6 pp.
5. 'Campus Creative Discussion, Plain Pair Groups,' 2007, *web site www.creativediscussion.org*, c. 2 pp.
6. 'Toyota Solar Today: collective corporate responsibility and awareness raising,' 2008, *web site www.creativediscussion.org*, c. 2 pp.
7. 'Creative Potential: accessing the creative potential of each member of an organisation,' 2009, *web site www.creativediscussion.org*, c. 2 pp.
8. 'The Key to Creativity is Insight,' 2010, *web site www.creativediscussion.org*, c. 2 pp.

◇口頭発表

1. 'Pair Group Teaching for communication and autonomy' 全国語学教育学会 1993年
2. 'Teaching the Awareness Dimension' 全国語学教育学会 1994年
3. 'Co-operative Counselling for Teacher Development' 大学英語教育学会 1995年
4. 'Pair Group Teaching' 大学英語教育学会（教員教育） 1996年
5. 'Awareness, Paradigms and Pair Group Teaching' 大学英語教育学会（教員教育） 1996年

年

6. 'Group Formation in the Communicative Language Class' 筑波大学 Foreign Language Centre (日本人教員向けシンポジウム) 1997年
7. 'Process Thinking through Paradigms and Pair Group Teaching' 筑波大学 Foreign Language Centre/ 大学英語教育学会 1997年

献 辞

ウィリアム・ブレイン教授は平成23年3月31日をもって名古屋外国語大学を退職されることになりました。

ブレイン先生はオーストラリア・カソリック大学（哲学・言語学）、シドニー大学（英語・政治学専攻）をご卒業後、産業・貿易省の輸出調査官として務められたのち、イタリア、ポルトガルにおいてブリティッシュ・カウンシルの英語学校で語学教師としてのキャリアをスタートされ、スイスの商業学校で教師を勤められたあと、1978（昭和53）年から5年間はスイスでご自分の英語学校を開き教えられました。

その後イギリスのレディング大学の大学院で英語教育のMAを取得され、1986（昭和61）年にはイタリアのトリノ大学でEnglish for Academic Purposesを教えられます。

先生がのちに名古屋外国語大学においでになることになるについては、レディング大学の夏期英語講座ではじめて日本人の学生に英語を教えることになられたところに、ちょうど私が東大から実験音声学の研究で同大学に単身で出張中であったことが下地になっています。

午前と午後のSenior Common Roomでのティータイムや、さらにはお宅に招かれての食事の際に、日本人に英語を教えることなどをめぐっていろいろな話をするようになりましたが、何事も先入観から決め付けず、広い視野でやわらかく受け止め、それを認めるところから対話を始め、じっくりと議論を進めて行く、という先生のコミュニケーションのあり方は、先生ご夫妻と、当時幼かったご子息の3人のご家庭の中でも実践されているものでした。

日本には1990（平成2）年においでになり、新潟大学で3年、筑波大学で5年教えられるうちに、控え目な学習態度の日本人学生を如何にコミュニケーションに積極的に参加させられるかをテーマに、学習者の自発性を

尊重し、自己との対話と相互の学びをもとに自分の意見を作り上げ、それを伝えることで新たな対話を生み出す、という手法を開発し発展させてられました。科学研究費の補助を受けたこの手法については先生のホームページに詳しく述べられています。(www.creativediscussion.org)

先生の授業では、学生は身のまわりのあらゆることに興味を持つよう求められ、それについて自分の頭で考えること、そしてそれが身の回りの人に伝わるように口頭でまた書面で発表することが課題の中心となります。そのため、学生が年間に書いたレポートを積み上げると1メートルになるということでしたが、落第した学生は先生の20年間の教授生活において一人もいなかったとのことでした。

このような授業を通して、「コミュニケーションとは何か」ということを体験した学生たちは、幅広い興味と柔軟な姿勢で社会の一員として育って行くことでしょう。

いつも学生のため、大学のために自分がどのように役に立つことができるだろうか、と考えてこられる先生でしたが、これからはアーティストであるイタリア人のご夫人の故郷トリノとオーストラリアとの間を行き来なさることになるでしょうが、新潟の田んぼに囲まれた古い藁葺きの屋根の家で育ち、世界の研究者が訪ねてくる筑波の宿舎に暮らした経験をお持ちのご子息は、本学の日本語教育センターの出身でもあり、ご両親の言語のほかに日本語にも堪能であることから、今後もしもご一家の日本とのかかわりは続くものと思われます。

先生ご自身の、またご家族のご健康をお祈りします。

2011年3月31日

副学長

外国語学部長

松野 和彦